

令和3年度 学校評価報告書

学校名	三田市立八景中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

自立して目標や夢の実現に挑戦する生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- (1) 学力向上への取り組みの充実
- (2) 道徳、人権教育の充実
- (3) 授業改善の工夫
- (4) 生徒理解に基づく生徒指導
- (5) 安全・安心で開かれた学校
- (6) 学校園所及び家庭・地域との連携

3 総合的な自己評価

学校評価アンケート結果の「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」を肯定的評価とする生徒の評価結果は、ほとんどの項目で9割以上を占めた。とりわけ、「学習指導」「GIGAスクール」「生徒指導」「生徒会活動」「学校行事」「感染予防」「開かれた学校」の項目に関しては、95ポイントを超える高い評価となっている。9割に満たなかった「進路指導」「部活動」「防災教育」においては、次年度に向けて以下のように取り組みの見直しを図っていく。

- ・学年に即した進路指導を心がけ、キャリア教育として将来について考えさせる。
- ・部活動においては「新しい活動様式」を考え出し、充実感を得る活動方法を模索する。
- ・防災教育においては、より実践を意識できる学習の機会を設ける。

保護者においては、概ね良好な評価を得ている。その中でも、「総合評価」が93ポイントに達していることは、教職員にとってたいへん励みになる。「進路指導」についての肯定的評価が若干低調ではあるが、進路情報提供を1年次から段階的に増やしていくことが大切であるとする。

今後、学校内外の活動の土台となるのは、「信頼関係」である。生徒と教師の信頼関係をより親密なものにして、生徒が相談しやすい環境の構築をめざす。また、組織的かつ計画的に保護者・地域と手を携えて学校教育の充実とともに、PDCAサイクルにもとづき、教育活動のさらなる改善・向上に努めたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が高く、学校の取り組みが充実していると感じた。どの項目においても、生徒の肯定的評価が保護者や教職員よりも高いところが評価できる。また、学校だよりや学校ホームページ等による情報発信がきめ細かく行われており、信頼関係の構築に役買っていると思われる。あわせて、地域に開かれた学校としての歩みは、着実に進展してきている。特に『八景中八景』の取り組みは、コロナ禍でもできることを検討し、工夫されている。それが地域への活動につながったところに価値があり、生徒にとっても新しい興味がわいてきたのではないかと。今後も、ますます工夫を凝らして生徒や学校と地域をつないでもらいたい。

今年度、新たな評価項目に挙げられた「感染症対策」は、とても高い評価を得られており、学校の予防対策の成果である。引き続き、安全安心の環境で生徒が活動できるように努力願いたい。「GIGAスクール」についても、教職員の工夫と、生徒の意欲的参加が伺える。今後は、より一層研修され、生徒の自学への応用を期待する。

「教育相談」についても、丁寧な取り組みをさらに充実させることで、「よくあてはまる」の割合を増やせるように望む。あわせて、不登校生徒への支援や地域での居場所づくりを考えてもらいたい。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	わかるよこびを実感できる学習指導の工夫と授業改善により、基礎基本の定着を図り、学力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」では、授業や学習相談を肯定する回答が多いが、家庭学習の取り組みには課題を残す。 ・「ひょうごがんばりタイム」を基礎基本の習得に特化することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が見通しをもって授業に取り組めるように、各教科でさらなる授業力の向上に努める。 ・基礎学力が定着するように授業改善と課題提示の工夫を行う。 ・学習相談の在り方を工夫し、個に応じた対応や学習内容の精選を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な教育活動が行われており、コロナ禍ではあるが、生徒はたいへん落ち着いた学習ができています。基礎学力を向上させ、家庭学習の定着を図るために、これからも引き続き個に応じた支援が必要である。また、タブレット端末を用いて、家庭における自学の習慣化に期待する。
	小中連携の充実を図り、規律ある学習・生活習慣づくりに取り組む。自己研鑽につとめ、専門性と実践的指導力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」では、GIGAスクールについて肯定的評価の割合が99ポイントを占めた。 ・校区幼小中学校で11年間を見据えて、「学びのすがた」と「育ちのすがた」を共有し、連携を積極的に図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の充実に向け、小中合同の研修会を計画し、交流できる教材を増やしていく。 ・三田市教育研修所との連携を密にし、GIGAスクールの取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクールの状況については、教職員の工夫が見られ、生徒も意欲的に参加している様子がうかがえるので、今後、より一層の研修を望む。 ・生徒が意欲関心を示し、自学による家庭学習を定着させることが課題である。
生徒指導 いじめ防止	教育相談の充実を図り、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導とともに、不登校生徒や発達にかかる支援の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」「保護者アンケート」ともに、生徒指導及び教育相談について肯定的評価の割合が90ポイントを超えている。 ・教育相談の時間をできる限り確保し、心のケアの充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の期間でなくても、平素から相談しやすい環境の構築を図る。 ・特別支援教育をさらに充実させ、推進していく。 ・SCやSSW等の専門的見地からの意見を参考に、不登校生徒へ丁寧に関わっていく。 ・あいさつ運動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談のアンケート結果では、肯定的評価は高いものの、「よくあてはまる」と回答した生徒は55%、保護者は26%である。相談することについて、敷居が高いと二の足を踏む生徒や保護者も多いはず。日々の関わりや声かけにより、生徒理解に一層努めてもらいたい。 ・不登校生徒への対応には、専門機関との連携が不可欠。また、地域での居場所づくりが、大切だと考える。様々な方面からのアプローチを試みてもらいたい。
	本校「いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けて組織的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」「保護者アンケート」ともに、いじめ問題について肯定的評価の割合が高か 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートや教育相談を継続し、日頃より生徒に向き合う時間を確保する。 ・いじめ見逃しゼロをめざして、 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が、生徒にとって安心して学べる環境であるように、高評価を堅持してもらいたい。 ・日頃の生徒との関わりを何よりも大切

		<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ対応チーム」で情報共有と方針決定を行い、組織的に対応し、早期に解決を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内の連携を丁寧に行う。 ・生徒との信頼関係を基にした相談しやすい環境も構築をめざし、聞くことと共感の姿勢を心がけて関わっていく。 ・肯定的評価していない7%の生徒の声を聞き逃さないように、教職員間の情報共有を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを活用し、教育相談週間を継続することにより、いじめの未然防止、早期発見・解決に努めてもらいたい。
研修（資質向上の取組）	特別支援教育の視点を生かし、個に応じた学習指導の工夫、すべての生徒に分かりやすい授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修は、「タブレットを活用した授業」にフォーカスして取り組んだ。 ・誰もが学びやすい環境づくりについての共通理解を図り、授業のユニバーサルデザイン化をめざした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてと振り返りを提示するだけではなく、1時間の見通しを持って授業を受けられるような仕組みが必要である。 ・授業改善のみならず、配布物や生活面におけるサポートも含めて、すべての生徒にとって分かりやすい指導を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを効果的に活用し、視覚的な支援をこれまで以上に充実させていってほしい。
	校内研修体制の充実により、人権感覚・危機管理能力の向上を図り、さまざまな教育課題に組織的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会による状況分析及び把握を適切に行い、生徒につけたい力を検討して、組織的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業時に身につけさせたい力を校区小学校とも共有し、9か年計画で指導していく。 ・そのためにも、小中連携を充実させて、共同研究を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の育成には、学校だけではなく保護者や地域の協力がなくてはならない。小中連携とともに、地域との連携が必要であろう。
開かれた学校づくり	学校園所連携推進を積極的に進め、地域の課題に生徒会を中心とした地域貢献活動を積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では、充実した取り組みができたとはいえないかもしれないが、「生徒アンケート」「保護者アンケート」とともに、特色ある学校についてとても高い評価を得た。 ・『八景中八景 2021』の取り組みは、地域でも賞賛された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度好評を得た、『八景中八景 2021』のように、学校と地域が一体となって取り組める活動を継続する。 ・地域とともに歩む学校づくりを進めるために、地域コーディネーターと職員による校内のコーディネーターが連携できる仕組みを構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『八景中八景 2021』の取り組みはすばらしかった。学校と地域がともに進んでいく活動ができた。地域行事に中学生が参加して活動する様子を見て、これからの地域を担う人たちの希望が見えた。 ・コロナ禍であっても、工夫を凝らした活動ができており、学校の姿勢がたいへん伝わってくる。これからも型にこだわらずに活動してもらいたい。
	教育活動の公開や学校ホームページの更新など、積極的な情報発信を行い、信頼される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」「保護者アンケート」とともに、開かれた学校づくりについての肯定的評価がたいへん高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや学校だよりを効果的に活用し、適時適切な情報発信を心がけ、さらに充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子や生徒の様子をきめ細かく発信できていることが、信頼関係の構築につながっている。ぜひとも継続してもらいたい。 ・学校だよりは、生徒をどのように育てていくかがよく分かる。今後も、そのときに求められている情報を精査して、機を逃さず発信してもらいたい。